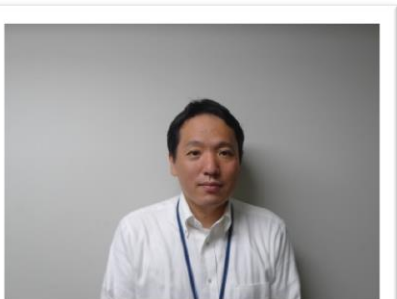




気象庁観測部気象衛星課  
吉田 良

## 子供の頃の夢は自然の風を 感じられる職業に就くこと

1984年生まれ。岐阜県恵那市出身。  
2009年の入庁後、アメダスやレーダーなどで日本の天気を見てきたが、もっと高いところから見たいと思い気象衛星ひまわりに携わるようになった。  
今は新しいひまわり8号/9号の準備のために、コンピュータプログラムをいろいろ作っているの、画面ばかり見ている。また、ひまわり8号打ち上げ後にアメリカ気象当局やNASAと協力することになっており、苦手な英語を駆使してその準備も進めている。



気象庁総務部総務課広報室  
牛田 信吾

## 大学時代は宇宙物理学を専攻 分かりやすく伝えるため日々奮闘中

1975年生まれ。愛知県名古屋市出身。  
1999年の入庁後は、1か月や3か月先を予報する季節予報を長く担当。季節予報には、地球全体の大気の流れや海の様子を確認することが必要であるため、衛星のデータを常に利用していた。現在は、広報室に勤務。国民の皆様や報道機関の皆様に、気象庁の仕事や防災についての知識をどのように分かりやすく伝えたらよいかと日々奮闘中。



公益財団法人日本宇宙少年団 (YAC)  
宇宙兄さんズ

～合言葉は～

**Go to Mars together!**  
**一緒に火星へ行こう!**

- 小定弘和 (右)  
1980年生まれ。宮城県仙台市出身。
- 小島俊介 (左)  
1975年生まれ。新潟県新潟市出身。  
元JAXA宇宙教育センター職員のユニット。  
宇宙をテーマに、子どもたちの好奇心、冒険心、匠の心に火をつける実験、工作、トークショーありのワークショップを展開。  
現在は、日本宇宙少年団コーディネーターとして、宇宙飛行士との交信イベントの司会や筑波や種子島でのスペースキャンプの指導者、JAXA×YACで行うインターネット放送番組「宇宙教育TV」に出演中。全国各地で宇宙教育活動の支援を行っている。



三菱電機鎌倉製作所  
ひまわり8号・9号プロジェクトマネージャ

磯部 昌徳

## 日本で一番身近な衛星「ひまわり」 の新たな挑戦とその責任の重さを痛感

1962年生まれ。滋賀県東近江市出身。

1985年の入社後は、衛星搭載機器用のモジュール電源や宇宙ステーションの日本実験モジュール

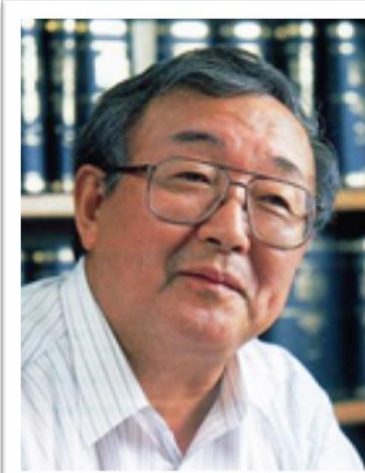
(JEM)の電源開発に従事。

その後衛星電源系サブシステムの開発を担当し、きく8号で国産初の100V安定化電源バスを開発。

ひまわり7号プロジェクトの受注を機にひまわり7号衛星システムを担当し、打上にも立ち会う。

その後、ひまわり8号・9号受注からプロジェクトマネージャを担当。

日本で一番身近な衛星で子供からお年寄りまで知られているひまわりを担当できることに喜びを感じつつ、ひまわり7号から数えて9号までの20年間にわたる日本の気象衛星を担当することの責任の重さをひしひし痛感している。



JAXA名誉教授  
的川 泰宣

## 講演「地球とともに生きる この国とこの星と私たち」

1942年生まれ。広島県呉市出身。

東京大学工学部航空学科卒業（宇宙工学第一期生）、東京大学大学院で、糸川英夫博士の最後の弟子。

JAXA宇宙教育センター初代センター長を務め、「宇宙教育の父」と呼ばれる。現在、JAXA 名誉教授、教育・広報アドバイザー、認定NPO 法人子ども・宇宙・未来の会（KU-MA、ケマ）名誉会長、日本宇宙少年団顧問などを務める。小惑星6526 には

「Matogawa」の名がつけられている。著書：『月をめざした二人の科学者 - アポロとスプートニクの軌跡』（中公新書）、『「はやぶさ」物語』（NHK 生活人新書）など多数。